

協議会ニュース

No. **160**
2018. 9



Contents

- 02 **【募集】生物（魚類）分類・生態研修会 (10/8)**
- 03 **【募集】協議会交流の日**
- 04 **野山のめぐみを装いに 木の実のアクセサリ②**
- 05 **あいちの自然観察会報告 5/5「湿地の自然」**
- 06 **研修会報告 7/15「朝倉川のいきものしらべ」**
- 07 **竹のクラフト⑥**
- 08 **私の活動紹介**
- 09 **理事会報告②5/4, ③7/16**
- 10 **行事案内/事務局からのお知らせ/編集後記**

事務局

西三河支部 三田 孝
名古屋支部 佐藤 裕美子
名古屋支部 石樽 純子
東三河支部 瀧崎 吉伸
名古屋支部 高木 和彦
尾張支部 松尾 初
事務局

今号の表紙

「遠州渋川枯山のギフチョウ」新山 雅一（名古屋支部）

2018(平成30)年度 生物(魚類)分類・生態研修会

愛知県自然観察指導員連絡協議会 名古屋自然観察会 主催

本事業は、なごや生物多様性保全活動協議会の活動支援の助成を受けて実施します

◆日 時 : 2018年10月8日(月・祝)

◆場 所 : 日本特殊陶業市民会館 3F第1会議室

名古屋市中区 金山一丁目5番1号 Tel (052) 331-2141

※地下鉄・JR・名鉄金山駅北口から徒歩5分

◆研修会 受付 : 13:15~

13:30~15:50(講演) 休憩(10分)

16:00~16:20(意見交換会)

●講師: 谷口 義則 氏 名城大学理工学部環境創造学科准教授

●演題: 「愛知県における外来魚問題」

●プロフィール



谷口 義則 氏

北海道大学大学院地球環境科学研究科・博士課程修了。博士(地球環境科学)。
環境省希少野生動植物保存推進員、愛知県絶滅危惧種調査検討委員会、愛知県外来種調査検討会委員、名古屋市環境局動植物実態調査検討会委員、IUCN(国際自然保護連合・淡水魚類スペシャリストグループ)日本地域副チェア、日本魚類学会自然保護委員会委員、ほか。

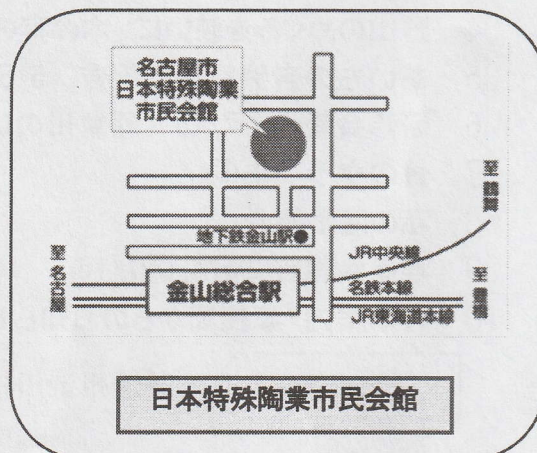
●講演要旨

本講演では、愛知県に生息する外来魚類について報告します。オヤニラミはスズキ目ケツギョ科の在来淡水魚で、本州の西部に自然分布していますが、本来分布しないはずの愛知県で確認されるようになりました(国内外来魚と呼ばれます)。肉食性で、縄張りを持ち、攻撃的であることから在来魚に負の影響を及ぼす可能性があります。そのため、愛知県では「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」により移入種として規制対象に選定されています。犬山市を流れる五条川源流部におけるオヤニラミの生息状況、年齢組成、体長、食性、本種の駆除に必要な努力量等について報告します。

加えて、もう1種、コイの問題について報告します。コイは、野生型(日本在来)と飼育型(ユーラシア大陸から移入)の2タイプに分けられ、愛知県内に広域に生息するコイのほとんどは後者の飼育型もしくは野生型と飼育型の交雑個体です。コイは、汚染に強く、雑食性で、大型化し、淡水水域で単一優占種と化して生態系を乱すことが報告されています。例えば、底生動物や底生付着藻類を採餌する際に泥を巻き上げ、富栄養化や透明度の低下、さらには水草を減少させる要因とも言われています。結果、世界の侵略的外来種ワースト100に指定されています。日本では、市民による放流や給餌により、不自然なほどの生息密度になっている都市河川がよく見られます。コイが多く生息する河川では他の水生動物との関係はどうなっているのでしょうか?これまであまり明らかにされてこなかった河川におけるコイが生態系に及ぼす影響の実態に迫ります。

●申込締切等、詳しくは、同封のチラシを参照ください。

●研修会終了後、講師を囲んで懇親会を行います。



「協議会交流の日」のご案内

日 時：平成 30 年 11 月 23 日（金、祝日） 10:00～15:00

場 所：鳥川ホタルの里（岡崎市鳥川町）

集合場所：岡崎市ホタル学校（10:00）

《日程》

- 10:00 岡崎市ホタル学校（0564-82-3027）集合
- 10:00～12:00 自然観察（シリブカガシなど）
- 12:00～13:00 昼食休憩
施設の都合で火が使えないので、振舞の料理はありません。
各自弁当をご用意ください。
アトラクションとしてオカリナ演奏を予定しています。
- 13:00～13:30 施設職員によるホタルのお話
- 13:30～15:00 自然物による工作
ホタル、どんぐりの帽子とどんぐり合わせなど
- 15:00 閉会

《申込み・問い合わせ先》

10 月 27 日（木）までに電話又は E メールで申込んで下さい

西三河支部 三田 孝 電話 0566-75-4059

E メール mita.takashi@nifty.com

《場所》

岡崎市ホタル学校

住所 岡崎市鳥川町小デノ沢 1

電話 0564-82-3027

ホームページ <https://okazaki-kanko.jp/mizutomidori/hotarunosato/>

野山のめぐみを装いに

～木の実のバッグチャーム

木の実のアクセサリー ②

名古屋支部 佐藤裕美子



個性的で味わいがあるいろいろな木の実を使ってバッグチャームを作ってみました。籠と相性ぴったりです。紐を換えればネックレスのトップとしても使えます。

《材料》 ジュズダマ・チャンチンモドキ・ツブラジイ・ツバキ・メタセコイア・フジ・細竹輪切り・赤中ウッドビーズ・小ビーズ・ワックスロープ 40cm (Cカン・丸カン・Tピン・ヒーカン各適宜・チェーン 5 cm)

《準備と作り方》

※木の実はあらかじめ熱湯で煮て乾かしておく。(虫が出ないようにするため。)

※固い実はドリルなどで穴をあけておく。

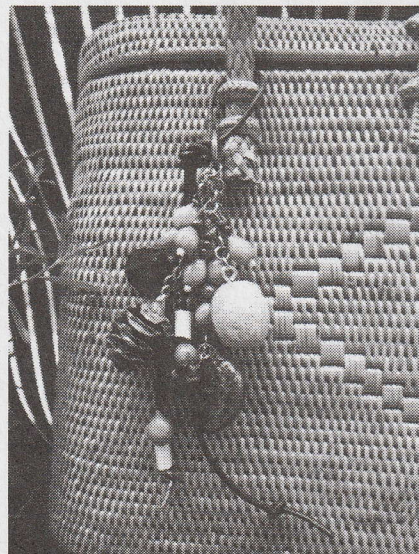
※実にはトップコートを塗っておく。

- ①チャンチンモドキ、ツバキ、メタセコイア、フジの実に穴を開け、ヒーカンを取り付ける。穴にはボンドを塗っておく。
- ②ツブラジイに穴を開け、Tピンを通して先端を丸く曲げておく。
- ③長いTピンにジュズダマ→赤いウッドビーズ→ジュズダマ→輪留めにCカンをつなぎCカンに②のツブラジイをつける。
- ④ジュズダマにTピンを通しビーズを適宜通して端を丸く曲げる。長さを変えて4個用意し、1つの先端に①のフジをつける。4つをCカンに通してモチーフを作る。
- ⑤①のフジ以外のヒーカンにCカンに適宜取り付ける。Cカン数を加減して長さが少しずつずれるように調節する。
- ⑥チェーンを5 cmほど用意し、バランスよく⑤の実を配置。上端にCカンをつける。
- ⑦大きめの丸カンに④のモチーフと③と⑥のチェーンを取り付ける。

- ⑧茶色のワックスロープの両端にジュズダマと細竹輪切りを通して堅結びで留める。

- ⑦の丸カンとバッグの手に

通して少しずらして2つ折りにし、まとめて結ぶ。



《百均の店やホームセンターの便利な道具》

小さなドライバー：実には小さな穴を開ける。

万力：固い木の実を固定して、穴を開ける

Cカン：平ヤットコなどで口をずらし、もう1個のCカンや丸カンなどをつなぐ。口がズレないように戻す。

Tピン：ビーズなどを通し、反対側で輪にして他の部品につなぐ。

ヒーカン：ネジを実の穴に埋め込み輪の部分をして他の部品につなぐ。

トップコート：透明のつや出し。ネイルカラーの保護に使う。木の実クラフトをワンランクアップさせる必需品！

ネイルカラー：茶色や黒、黄、赤など100均のネイルカラーは実の欠損や表面や剥げたときの補修に重宝する。

工作用粘土：少量でいろいろな色の粘土があり、ブローチ等の土台、木の実の種を取った後に詰めるなど多用途に使える。

島田緑地湿地帯の観察会報告

名古屋支部 石樽純子

5月5日(祝)午前 天気：晴れ

参加者：一般(湿地の会会員含む)12名、
指導員10名、他(行政)1名

名古屋自然観察会の「ふるさと親子自然観察会」で、「湿地の自然」をテーマに天白区の島田緑地を訪れました。そこは名古屋市営の自然生態園で、通常は4月～10月の(土)(日)(祝)に再生区域にしか立ち入れないのですが、この日は年に2回しか公開されないという聖域サンクチュアリ部分も見学を許されました。名古屋東部丘陵に特有の粘土が厚く堆積した上に水がしみ出して形成された湿地で、かつてこの付近は広く湿地帯だったのですが、周りの宅地開発が進み、現在はこの限られた湿地のみとなったそうです。開発による変化を見続けてきた島田湿地の会の方からは、この40年間の今と昔のお話を丁寧に説明していただきました。

観察会の前半は浅井さんの指導で森から何かを拾ってきて、それを仲間に仕分けしてその説明を受けました。また今回連休中だということに10名もの指導員の参加があったのですが、それぞれが自己紹介を兼ねて「いつでも、どこでも、誰とでも」のミニ観察講座をするようにとのことでした。突然振られたこのミニ観察会にもみなさんすぐにそこにあるもので、いろいろな視点で楽しいお話をしてくれました。先輩指導員のみなさんはさすがです！特に湿地を形成する礫のチャートの石ころをぶつけて匂いを嗅ぐというのは初めてのことで新鮮な体験でした。

そして後半は、フェンスの中の酸性で貧栄養という条件に適合した独特の植物群を

観察しました。水はたっぷり湧き出していましたが、さらにポンプで園内を循環させているそうです。ハッチョウトンボやシラタマホシグサをはじめ希少な植物があるそうです。トウカイコモウセンゴケは保全区域で元気に株を増やしていましたし、クロスギンヤンマ、シオヤトンボ、ヨツボシトンボもヤゴが採集されることなく、たくさんのお体が水辺を飛んでいました。周囲の新興住宅地の中に残存するこの不思議な空間を、自然の移り変わりや遷移に抗ってもしっかり守りたい気持ちがわかりました。

まだ、この湿地を訪れたことのない方には、来訪をおすすめします。



▲トウカイコモウセンゴケ



▲豊かな水がある湿地

朝倉川の生き物調べ

東三河支部 瀧崎^り 吉伸

平成30年7月15日に、東三河支部の主催で協議会研修会「朝倉川の生き物調べ」が行われた。この研修会は翌週に開催される自然観察会の下見を兼ねていた。

会場は豊橋市東田町の競輪場がある東田公園に隣接する朝倉川。

午前9時には会員が集まっていた。参加者はユース会員を含めて13名。大変に暑い日で、わずかばかりの川沿いの桜の木陰にみんなが寄り添うように集まる。岩崎氏や天野氏が水槽や網を準備する。朝倉川育水フォーラムの副理事長で、今年から東三河自然観察会の会員に加わられた大谷氏も参加してくださる。大谷氏はしばしばこの場所で水生生物を調査されており、知識はもちろん採集観察の技法も素晴らしい。

川の水位はそれほど深くなく、水温も25℃ほどであった。深みに入ると長靴では水が入る程度の水位だが、危険は感じられない。参加者の内、川での活動になれた天野氏や岩崎氏は、長ズボンとぬれても良い古靴で水に入っていた。水から上がってしばらくするとズボンも乾いてしまう。

タモと四つ手網を用いて水生生物の採集を行った。絶滅危惧種を含む、多くの生物が採取できた。天野氏は、バケツに100円均一で購入したプラスチックのざるの底の部分をくりぬいたものをかぶせて、採集した生き物を入れていた。こうするとカエルなども飛び出さず大変都合が良い。最後に採集した生物を透明な水槽に並べ、写真を撮ったり解説を聞いたりした。ヨシノボリ(ハゼ)類は腹鰭が吸盤になるのに対し、

ウツセミカジカではそうならない。透明水槽は、これも天野氏の準備した100V電源のバッテリーからポンプの電源を供給してエアレーションした。それでも水温が高く、長い時間水槽に生き物を置くことはかわいそうであった。11時頃には全ての生き物を川に返して終了した。採集できた主な生き物は以下の通り。

魚類

カワムツ、オイカワ、カマツカ、カワヨシノボリ、ウツセミカジカ(国EN、県VU)、ミナミメダカ(国VU、県NT)、ニホンウナギ(国EN、県EN)

両生類

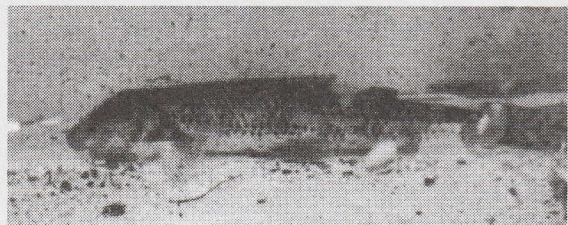
ウシガエル(特定外来生物)

甲殻類

テッポウエビ、アメリカザリガニ、モクズガニ、ミナミヌマエビ(外来種かも)、スジエビ

貝類

カワニナの仲間、タイワンシジミ



▲ウツセミカジカ



▲カマツカ

竹クラフト 第六回 (最終回)

紙竹トンボ

名古屋支部 高木和彦

第六回は色々試して楽しめるネタとして紙竹トンボを紹介します。紙竹トンボの本当の名前は？ フレームが竹で、羽が紙でできているので適当に呼んでいます。竹トンボほどは飛ばず高さ5-6m程度です。羽の重さが軽いので慣性が小さく、顔などに当ててしまった時にケガをする恐れはまずありません。但し、目に入ればやっぱり危険です。安全眼鏡着用、人が多い所では飛ばさない事をお勧めします。

まず真竹で厚さ1.5、幅7、長さ90mm位の板を作成します。板の中央にφ2.5の穴を開けます。穴の大きさは使用する竹ひごの太さによるのですが、竹ひごはφ2.5前後の物を使うのが良いと思います。長さ140mm位が適当だと思います。買ってきた竹ひごで良いのですが、曲がったものや断面形状が丸でない物などあるので選別します。(余り厳格に選別する必要はありませんが)板は穴を開ける時多少ずれて



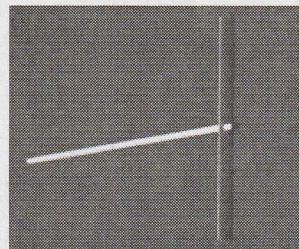
▲ 断面形状

しまうので、対称になるように削って調整します。重さのバランスは後でとる事が出来ますが、慣性モーメントのバランスを後で調整するのは極めて難しいので(竹トンボほど正確にする必要はありませんが)出来るだけ対称になるように調整する必要があります。その後、板を断面図の様に少し削ります。

軸と羽の骨を接着します。直角になるように付けます。軸を回しながら羽の骨の先端を見て幅が一番狭く見える所が直角です。

接着は、速乾性のボンドが外れ難いのと安全なのでお勧めです。

接着後、重量バランスを取ります。図でどちらかが下がればそちらが重いので、そちら側を少し削ります。水平になったら、逆に置いてみて反転するようなら下になる方が重いので長手方向全体に削ります。



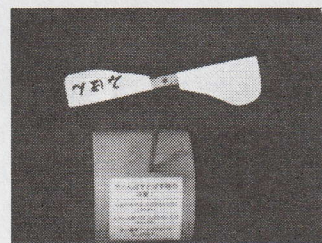
▲ 組み立て

羽は紙で作ります。紙の厚さは90g紙以上なら良いと思います。(コピー用紙は64g紙が主流)私は雑誌の表紙を使います。白色の物なら後にマジックペンで色付けが出来るので子供には受けます。紙用のノリや、速乾性の木工ボンドでつけたりします。



▲ バランスの確認

羽の形は任意です。羽の形や、角度を変える事によって飛び方が変わります。紙竹トンボの良い所は羽を張り替える事が出来るので、どのような羽にするとよく飛ぶのかと考えて、試す事が出来る事です。



▲ 羽を張り付け完成

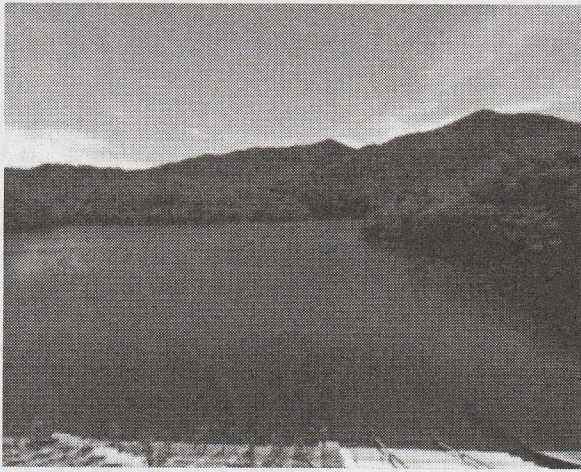
中心付近の羽は錘になるだけで浮力には寄与しません。角度は人によります(回転速度による)個人個人で最適なそれは変わります。色々試してみてください。

私の活動紹介（築水池自然観察会）

尾張支部 松尾 初

尾張支部の築水池自然観察会では毎月第4木曜日に観察会を実施しています。昨年まで毎月第4日曜日に実施していましたが、参加者層の変化を求めて木曜日に変更しました。築水池観察会は1997年8月から今年で21年になりました。

築水池周辺は愛知高原国定公園の一部である春日井市の東部丘陵地であり、県による整備事業でいままで無かった湧水湿地等を通る周遊路（歩道）が造られ、その周辺には緑化樹木等が植栽され、自生種の盗掘などが危惧され、保護保全が必要となったことによります。実際に築水池周辺では外来の食虫植物の移植、シラタマホシクサの播種や湿地植物等の盗掘がされています。この遊歩道等も、しばらくは県の事業の中で他団体との協力のもと、啓蒙維持活動がなされて来ました。



▲築水池観察会のルート全景

整備事業から20年以上たった現在、遊歩道は細々と維持されているものの植栽された樹木が最近では国定公園の中で繁茂し始めています。

これと平行して築水池自然観察会は20年来同じルートを定期的に観察している観

察会ですので、10数年前から、ルート上の動植物がどのように変化しているかを現在確認するためその記録を整理しています。

観察会の記録を整理するにあたり、現在の正確な植物の同定とリストの作成を行っています。しかし、現在、この地域の植物を同定していると疑問の植物が出てきました。その一つがギボウシの仲間です。最近、愛知県では「グリーンデータブックあいち2017 維管束植物編」が発行され、春日井市ではキヨスミギボウシ、ミズギボウシ、ミズコバギボウシが分布しているとされ、私の観察ルートに生育しているギボウシはミズギボウシ、コバギボウシの2種としていますが県の発行している冊子とは違ってきます。私の同定が違っているのかははっきりしません。現在、各地の産地を会員方に聞きギボウシの観察確認を予定しています。

植栽された植物の動向ですがシラカシ、アラカシ、マテバシイ、エゴノキ等が植栽されましたがこれらの植物が自然公園の自然植生に対してどのような影響を与えるのか確認できる格好の材料です。幸運にも、この遊歩道を造る前の植生調査等を実施した記録があり、特に当地域に存在しないシラカシが成長著しく、当該地域の植生に大きな影響を与えているようです。その動向を確認することも現在取り組み中です。

もう一つは当該地域の植生の特徴である湧水湿地の動向です。湧水湿地も事業当初の記録がある他、県との協定のもと、他団体が維持活動を実施しています。この維持活動の結果をふまえ、比較結果を報告しようと考えていますので皆さんのご協力をお願いします。

平成 30 年度 第2回理事会 報告

日 時：平成 30 年 5 月 4 日(金・祝)13:30～ 場所：なごや都市センター

出席者：堀田、星野、石原、長谷川、日浦、浅井、永田、新山、山田、松尾、滝田、榊原、寺本、河江、

◆活動報告(3月～5月)及び今後の事業予定(5月～7月)

◆議案

<主な確認事項>

あいちの自然観察会・研修会について	連絡先を入れる。
広報活動	協議会ニュースの表紙の写真を募集。昆虫の顔などアップの写真があれば欲しい。
名簿管理 協議会ニュース未送付について	名簿管理が所有する協議会名簿と各支部が所有する協議会名簿を照合し、未送付の人がいたら送付する。
受託事業について 豊田市稲武・自然観察ハイキング	県協議会の受託事業ではなく、その他の個人扱いとする。

その他

豊田市稲武・自然観察ハイキング (振甫中学校から事務局に問い合わせあり)。

日時：9月11日(火) 10:00～12:30

場所：名古屋市稲武野外教育センター第1本館 愛知県豊田市稲武町井山1-19 Tel 0565-82-2250

対象：名古屋市立振甫中学校2年生3クラス112名+特別支援6名

コース：第1本館から記念碑を経て面ノ木園地(2.5km)まで自然観察(B・OLコース))

募集：リーダー15人(リーダー一人当たり7～8名)

集合：名古屋市稲武野外教育センター第1本館前9:30

平成 30 年度 第3回理事会 報告

日 時：平成 30 年 7 月 16 日(月・祝)13:30～ 場所：穂の国とよはし劇場

出席者：堀田、星野、石原、長谷川、日浦、浅井、永田、瀧崎、松尾、滝田、榊原、寺本、河江

◆活動報告(5月～7月)及び今後の事業予定(7月～11月)

◆議案

<主な確認事項>

生物(魚類)分類・生態研修会	日時:10月8日(月・祝)13:30～ 場所:日本特殊陶業市民会館 テーマ:愛知県における外来魚問題 講師:谷口 義則氏(名城大学) 愛知県絶滅危惧種調査検討委員、愛知県外来種調査検討委員
協議会交流の日 (担当:西三河支部)	日時:11月23日(金・祝日) 場所:岡崎市鳥川(とっかわ)岡崎ホテル学校 内容:10:00～12:00 自然観察(シリブカガシなど) 13:00～13:30 施設職員によるホテルのお話 13:30～15:00 自然物による工作(ホテルなど)河江氏指導による
※P3を参照ください。	
HP	本来の目的が機能していない。必要な情報は、HP担当に送る。
本年度三重県で開催される 指導員講習会の内容	日時:11月23日(金・祝日)9:30～24日(土)16:30 場所:四日市市少年自然の家 定員55名 対象18歳以上 先着順 費用20,000円 申込期間8月1日(水)～10月20日(土) 申込先 三重県環境学習情報センター 指導員講習会係 電話:059-329-2000
あいち海上の森フォーラムへの参加	フォーラムへの参加は、今年度は様子を見ることにした。
大谷会長の協議会への退会届けについて	協議会はNACSJの会員が前提であることを理事会で確認し、大谷会長を顧問に推薦した。

次回 第4回理事会 11月24日(土) 14:00～ : 西三河支部担当 刈谷市産業振興センター301会議室

協議会ニュース

No. **160**
2018. 9



Contents

- 02 【募集】生物（魚類）分類・生態研修会(10/8)
- 03 【募集】協議会交流の日
- 04 野山のめぐみを装いに 木の実のアクセサリ②
- 05 あいちの自然観察会報告 5/5「湿地の自然」
- 06 研修会報告 7/15「朝倉川のいきものしらべ」
- 07 竹のクラフト⑥
- 08 私の活動紹介
- 09 理事会報告②5/4, ③7/16
- 10 行事案内/事務局からのお知らせ/編集後記

事務局

西三河支部 三田 孝
名古屋支部 佐藤 裕美子
名古屋支部 石樽 純子
東三河支部 瀧崎 吉伸
名古屋支部 高木 和彦
尾張支部 松尾 初
事務局

今号の表紙

「遠州渋川枯山のギフチョウ」新山 雅一（名古屋支部）